本願寺山科別院　機関誌
山科さん

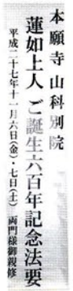
「中興の祖」蓮如上人のご誕生六百年をお祝いし、ご遺徳を偲ぶ

「蓮如上人ご誕生六百年記念法要」を修行
ご門主、前門さまが御親修、1400名が参拝

本願寺中興の祖、蓮如上人のご誕生から今年で六百年を迎えることから、山科別院で十一月六日、七日の二日間にわたって、一日一座、各々大谷光淳ご門主、大谷光真前門さまが御導師（御親修）を勤められ、多数の参拝者で賑わった。

ここに法要の総集編として記念写真を中心に「法要特集号」を編集いたしました。

法要のお待受け



▲法要懸垂幕

▲法要ポスター

▲法要高札立札式（4月2日）

▲参拝者の受け入れ体制①

▲参拝者の受け入れ体制②

▲参拝者の受け入れ体制③

お礼のことば

本願寺山科別院　輪番　渡邉　信

別院の「新たな始まり」の第一歩として計画し、諸準備を進めてまいりました蓮如上人ご誕生六百年記念法要は、十一月六日ご門主さまご親修、七日前門さま御導師のもと、遠近各地から多くの方々のご参拝をいただき、厳粛かつ盛大裡にご修行、熱い感動をもって円成することができました。これ偏に、夜を昼に継いでご苦労たまわったご関係の皆さまのお蔭であり、衷心より厚く御礼を申しあげます。

このたびは、宗祖以外にご誕生記念の法要を勤めるという宗門史上類のないことでもあり、修行に至るまでは厳しい道のりでありました。しかし、上人への報謝の念が結集され、崇敬区域内ご寺院・講社を始め別院門信徒などの力強いご支援・ご協力を得て結実されたものと存じます。特に、法要を全面的に支えていただいた役員の方々のご苦労は筆舌に尽くしがたいところであります。

向後は、両門さまのお言葉を体し、一人ひとりがご誕生の意味を確認しつつ、蓮如上人のみ跡を仰ぎ、別院が時代相応の伝道教化により、皆さま方の心の拠り所となる念仏道場として機能いたしますよう誠心誠意努力させていただく所存であります。

ここに簡略ながら、ご関係の方々へのお礼のことばとさせていただきます。

合掌

蓮如上人ご誕生六百年記念法要
法要特集号（総集編）

第三十八号
平成二十八年一月発行
発行責任者　輪番　渡邉　信
発行所　本願寺山科別院内
法要実施委員会
京都市山科区東野狐藪町二番地
〒六〇七-八一五五　TEL〇七五-五八一-〇九二四

法要行事を支えた人たち

このたびの法要行事を営むにあたっては、法要実施委員会委員はもとより、仏教婦人会、スカウト、山階学区自治会連合会や地域の方々のお力添えあればこそ、盛大裡のうちに円成することが出来たのである。深く感謝を申しあげたい。

▲参拝者の誘導

▲法要実施委員会委員のみなさん

▲スカウトのみなさん

▲懇志の受付

▲スカウトのみなさん

▲大型バスの迎送

次の世代へ確実に

法要実施委員会
委員長　稲岡義證

好天のもと、ご門主さま・前門さまをお迎えし、中興の祖、蓮如上人ご誕生六百年記念法要が満堂のご参拝をいただき、お同行の方々と慶びの中にお勤めさせていただくことが出来、ご参拝をたまわった皆さまに心より御礼申し上げます。

特に、この法要の準備等大変なお力添えをいただいた数多くの役員の皆さまに厚く御礼申しあげます。

今、私たちが尊いお念仏に遇えたのは、偏に本願寺の再興に心血を注がれた蓮如上人のお陰であります。

そのお心を旨に、ご懇念を上納いただきました皆さまに厚く御礼申しあげます。

しかし、期間中、「山科さん」は何もしてくれないから、ご懇志は進納しない。という声も聞かせていただき、非常に悲しい思いもいたしました。

このご法要が機縁となって、愈々ご法義が繁昌し、お念仏が次の世代に確かに相続されることを願い、御礼の挨拶とさせていただきます。

法要実施委員会

（順不同・敬称略）

〔委員長〕
稲岡義證（滋賀）

〔副委員長〕
池田恵俊（滋賀）　石本龍憲（東海）

〔委員〕
小向達也（東海）森　知子（東海）
野瀬善隆（滋賀）宮崎　博（京都）
岩田信也（東海）釋迦裕史（滋賀）
森野宏一（滋賀）黒田昭信（滋賀）
蒔田恵俊（東海）中西了正（滋賀）
小谷新次（滋賀）深井恵純（滋賀）
辰巳はる枝（滋賀）藤谷峻成（滋賀）
豊原隆夫（滋賀）津田孝夫（滋賀）
青峰明誓（滋賀）大島行麿（東海）
土橋元尚（京都）林　弘（京都）
新谷紀子（京都）太田孝司（滋賀）

〔関係団体〕
下村京子（ガールスカウト京都50団）
植村榮美子（仏教婦人会）
三木悦子（仏教婦人会）
米澤多恵（仏教婦人会）
毛織賢恵（土曜子ども会）
神林明燈（土曜子ども会）
黒田紗希（土曜子ども会）
住友正歳（山階学区自治会連合会）

〔講社関係〕
武村順一（栗太組山科二十五日講）
保知七郎（蒲生下組山科講）
大林弥三郎（山科別院神崎組二十五日講）
小林康郎（山科別院犬上組二十五日講）
木下慶一（大滝二十五日講）
有川正二（江州番方講北方）
木田育伸（吹田山科講）

編集後記

振り返れば、法要の構想からはじまり、実施計画の策定、ご法要に至るまで約二年有余の歳月をかけ、二十数回の役員による協議を重ねるとともに、ご本山との打ち合わせ等、限られた人員、予算と日数の中でご法要が盛大裡に円成したことは、無上の喜びである。大所高所から、色々とお力添えをいただいた方々に感謝の意を表したい。心配された天候も、好天に恵まれ、稀有なるご勝縁に遇い得た喜びを関係者一同深くかみしめているところである。

ご門主さまがお示しになった「いまの時代にあったみ教えの説き方も考えなければなりません。山科別院が今の時代の念仏の道場として、ますます発展されることを願っております」とのお言葉を心に刻み、より一層お念仏相続に、邁進させていただきたいと思う。

（編集子）